

かんきつ栽培暦

重点管理作業	月	旬	定期(基幹)防除			追加防除 (必要な場合実施)	定期(基幹)および追加防除		
			み	か	ん				
●苦土・石灰質資材の施用 ●堆肥の施用と中耕 ●間伐 ●中晩柑の剪定	2	全	栽培日誌には必ず記帳を行いましょ！						
●春草の除草	3	上	ミカンハダニ	クミアイアタックオイル	80倍	※ICボルドーを散布する場合、クミアイアタックオイルは3月上旬に散布し、散布間隔は14日間以上あける。	ミカンハダニ	クミアイアタックオイル	80倍
●春肥の施用		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	※カイガラムシ類多発園はクミアイアタックオイルにアブロードフロアブル1,000倍を混用し散布する。	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍
●花肥の施用 (10aあたり硫酸20kg)	4	下	4月下旬(発芽後)			4月上旬(発芽後)	ミカンサビダニ	サルファーゾル	400倍
●温州みかんの剪定(開花後に弱剪定)		上	いしじおよび開花の早い園地	コアオハナムグリ・ケシキスイ類	オリオン水和剤 40	1,000倍	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍
●夏肥の施用	5	中	コアオハナムグリ・ケシキスイ類	エクシレルSE	5,000倍	※アブラムシ発生の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●摘果剤使用方法 タム水溶剤 みかんの局部摘果。はるみの摘果:1,000倍(満開後10~40日後) フィガロン乳剤 みかんの間引き摘果:2,000倍(満開後20~50日後)		下	灰色かび病	ストロビドドライブフロアブル	3,000倍	※アブラムシ発生の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●タイベックマルチの被覆	6	上	ミカンハダニ	クミアイアタックオイル	150倍	黒点病の追加防除(8~9月) 定期防除後、累計降雨量が200ミリを超える場合行う。 ※総使用回数、収穫前日数に注意	かいよう病	コサイド3000	2,000倍
●中晩柑の荒もぎ摘果		中	ヤノネカイガラムシ	トランスフォームフロアブル	2,000倍	7月下旬~8月上旬	かいよう病	コサイド3000	2,000倍
●夏草の除草	7	下	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	7月上旬	ハナザミウマ・サビダニ	ファイナーフロアブル	4,000倍
●温州みかん熟期促進(1回目) フィガロン乳剤 3,000倍 ※干ばつ時、樹勢低下樹の場合使用しない		上	ミカンハダニ	クミアイアタックオイル	150倍	7月下旬~8月上旬	展着剤	アビオンE	1,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルビタP 770倍	8	中	品質向上	カルビタP	770倍	8月下旬~9月上旬	ミカンサビダニ	ダニカット乳剤20	1,000倍
●温州みかん熟期促進(2回目) フィガロン乳剤 3,000倍		下	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	9月中旬	黒点病	ストロビドドライブフロアブル	2,000倍
●秋肥の施用...中晩柑	9	上	ミカンハダニ	クミアイアタックオイル	150倍	10月上旬	ミカンハダニ	クミアイアタックオイル	150倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルビタP 770倍		中	品質向上	カルビタP	770倍	10月中旬	黒点病	ストロビドドライブフロアブル	2,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルビタP 770倍	10	下	緑かび病	ベフトップジンフロアブル	1,500倍	11月上旬	緑かび病	ベフトップジンフロアブル	1,500倍
●秋肥の施用...みかん		上	品質向上	カルビタP	770倍	11月中旬	樹勢回復	尿	200倍
●タイベックマルチの除去	11	中	緑かび病	ベフトップジンフロアブル	1,500倍	12月上旬	樹勢維持	尿	200倍
●樹勢維持・回復の葉面散布時には 万田31号 10,000倍 またはケルバック3,000倍を混用する。		下	樹勢回復	尿	200倍	12月中旬	樹勢維持	尿	200倍
	1	上	樹勢維持	尿	200倍	12月下旬	樹勢維持	尿	200倍

◎ 施肥基準 ※収穫量に応じて施肥量は調整する。
(温州みかん:10a当たり生産量4トン目標の場合)
(いしじ、中晩柑:10a当たり生産量3トン目標の場合)

	春肥		夏肥		秋肥	
	3月下旬	5月下旬	3月下旬	5月下旬	10月~11月上旬	10月~11月上旬
極早生	4袋	3袋			7.5袋	6袋
早生・普通	3袋	2袋	6袋	5袋	4袋	3袋
いしじ	4袋	3.5袋	9袋	7.5袋	6袋	5袋
大津・青島	3袋	3袋	8袋	7袋	5袋	4袋

※濃縮348は15kg入り。
*いしじの夏肥を元気866または濃縮348で行う場合は、5月下旬と6月中旬に分ける。

	3月下旬		5月下旬		10月~11月上旬	
	元気200	濃縮348	元気200	濃縮348	元気866	濃縮348
いしじ(省力化基準)	2.5袋		6袋		6袋	5袋

※元気200を使用することで、施肥コスト低減を図る。
※元気200で夏肥施用の場合、分肥の必要はない。

	3月下旬		5月下旬		9月上旬	
	元気200	濃縮348	元気200	濃縮348	元気200	濃縮348
中晩柑	5袋		5袋		5袋	

※緩行性肥料の元気200は年間3回施肥の省力化タイプ。

	9月上旬		中晩柑一発358		8袋	
	元気200	濃縮348	元気200	濃縮348	元気200	濃縮348
中晩柑	9袋		8袋		8袋	

※使用時期と施用量を守り年1回の施用。

苗木	3月上旬		5月下旬		9月上旬	
	元気200	濃縮348	元気200	濃縮348	元気200	濃縮348
1年生	80g/1樹		80g/1樹		80g/1樹	
2年生	150g/1樹		150g/1樹		150g/1樹	
3年生	300g/1樹		300g/1樹		300g/1樹	

◎ 土壌改良資材
(有機物資材) 必要に応じていずれかの資材を施用
10a当たり施用量目安
豊穡...2トン アズミン...40~100kg 牛ふん(中晩柑)...1トン
ココナツツビート...100~200個
(石灰質資材...マリンカルまたは苦土石灰)
10a当たり100kg(前年未施用園140kg)
※施用後、有機物資材と併せて中耕する。
(苦土資材...ニューエコマグ、スーパーマグ、硫酸マグ) 土壌分析で不足の場合、施用する。

◎ 除草剤使用基準
●ラウンドアップマックスロード
使用時期: 雑草生育期(収穫7日前まで) 使用回数: 3回以内
50~100倍(スギナには25倍)
〔薬量10a当たり 500ml~1,000ml〕
〔散布液量 10a当たり 50リットル〕
※散布の際は専用のノズルを使用する。
●バスタ液剤
使用時期: 雑草生育期(収穫21日前まで) 使用回数: 3回以内
100~200倍
〔薬量10a当たり 500ml~1,000ml〕
〔散布液量 10a当たり 100リットル〕
※いねいに散布。
●シンバー水和剤
使用時期: 3月、7月上旬(収穫7日前まで) 使用回数: 2回以内
土壌全面に散布または雑草茎葉に散布 750倍
〔薬量10a当たり 200g〕
〔散布液量 10a当たり 150リットル〕

★ 農薬散布時の注意点 ★
●風の無い時を選んで散布する ●近接作物に飛散しないように注意する
●散布の位置と方向に注意する ●使用時期・回数は基準に従い散布する
●散布機の圧力は適切にする ●残液は、海・川・池に流さない
●散布量は適切にする